

令和4年決算特別委員会〔建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和4年11月8日(火)
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員
 担当部課 建設部土木局河川砂防課

質問要旨	答弁要旨
<p>一 海岸の保全等について 始めに、海岸の保全等についておたずねいたします。 海岸の保全について、道では9つのエリアに分けて海岸保全基本計画を策定し、整備等に努めてると承知しています。近年、発達した低気圧による高波被害や千島海溝を震源とする巨大地震、いつ発生してもおかしくない状況と言われており、気象災害等を踏まえると、防災・減災の観点から施設整備の早急な対応について以下何点かお伺いいたします。</p> <p>(一) 国の交付金等事業費の推移について まず、平成29年度から昨年度までの海岸保全事業における国の交付金等の事業費の推移についておたずねいたします。</p> <p>(二) 全道からの要望と要望に対する整備の進め方について これまでも質問してきましたが、私の地元でも長年にわたる離岸堤のかさ上げの要望があります。全道の各地域からも防潮堤の嵩上げなどの要望も多く寄せられていると思います。令和3年度時点で全道的にどのくらいの箇所で要望が上がっており、実際に事業を着手できているのは、どのくらいあるのかお伺いいたします。</p> <p>(三) 施設整備の進捗状況について 直近5カ年で、地域からの要望のうち、何件の施設整備が完成したのか伺います。</p> <p>(四) 単独事業費の推移について 施設整備完了は5年で48件、要望件数と比べると、数は大変少ないと言わざるを得ません。 以前、国の交付金を活用して事業を実施する場合の採択要件について確認したところ、離岸堤の嵩上げ等については、国の交付金の採択要件を満たさず、単独事業費で整備しているとお聞きしました。 その時あわせて単独事業費についてもお聞きしましたが、平成25年度から29年度まで、ほぼ10億円台で推移しておりましたが、平成30年度から令和3年度までの単独事業費はどのように推移したのか伺います。</p> <p>(五) 進捗状況の認識について 改めて単独事業費についても確認しましたが、海岸延長の長い北海道で必要な施設整備を行うにしても、この予算規模では何十年かかっても終わらないのではないかと言わざるを得ません。現在の施設整備の進捗状況について伺います。</p>	<p>○砂防災担当課長 吉田 安範 事業費の推移についてですが、建設部所管の海岸保全施設に係る交付金事業の事業費は、当初予算と補正予算を合わせて、平成29年度は約25億円、平成30年度は約31億円、令和元年度は約40億円、令和2年度は約60億円、令和3年度は約41億円であります。</p> <p>○砂防災担当課長 吉田 安範 地域からの要望などについてですが、令和3年度に各地域からいただいた海岸保全施設整備に関する要望は470箇所であり、このうち、66箇所で開催しております。</p> <p>○砂防災担当課長 吉田 安範 海岸保全施設の完成箇所についてですが、平成29年度から令和3年度までの5年間で完成した施設は48箇所あります。</p> <p>○砂防災担当課長 吉田 安範 道単独事業費の推移についてですが、当初予算において平成30年度は9億9,400万円、令和元年度、2年度、3年度は同額で9億9,770万円であり、各年度、補正予算を含めると、13億円台で推移しているところであります。</p> <p>○砂防災担当課長 吉田 安範 施設整備の進捗状況についてですが、令和3年度末現在、建設部が所管している海岸線延長2,323キロメートルのうち、高潮などによる被害から人命や財産を防護する必要がある海岸保全区域の延長は1,319キロメートルであり、区域内において整備された延長は537キロメートル、区域延長に対する割合は41パーセントとなっているところであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(六) 今後の整備と対応について</p> <p>進捗率が41パーセントとの答弁でしたが、本当に整備が遅いと思います。巨大地震の発生リスクが極めて高くなっていると言われていた中、道民の命や財産を守ることはもとより、防災・減災という観点からも、施設整備をいち早く進めていく必要があります。</p> <p>道の単独費用も抜本的に増やす必要があると考えますが、道として全道各地からの整備要求に対し、予算措置を含め、今後どのように対応していく考えなのか伺います。</p> <p>予算確保に向けた対応はもちろんです。交付金事業における採択要件の緩和など、こうしたことも国に強く働きかける必要性について指摘して、道営住宅問題について伺います。</p>	<p>○土木局長 折谷 徳弘</p> <p>今後の取組についてでございますが、津波や高潮、波浪などの災害から人命や財産を守るため、海岸保全施設の整備は大変重要と考えてございます。</p> <p>このため、道では、被害が発生した海岸を優先するなど、地域の実情を踏まえながら、効率的、効果的に海岸保全施設を整備いたしますとともに、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などの予算も活用し、整備の進捗を図ってきたところでございます。</p> <p>道といたしましては、今後とも、必要な予算の確保に努め、道民の皆様の安全で安心な暮らしが守られるよう、取り組んでまいります。</p>